

第97回 品質管理シンポジウム

ものコトづくり時代の品質と人材育成
ワクワク品質と安心品質の両立を支える更なる品質力強化を目指して



特別講演

「ブリヂストンの経営改革
～『名実共に世界一の地位の確立』
を目指して～」

荒川 詔四 氏

(株)ブリヂストン 相談役



基調講演

「アフェクティブな経営
～感情経験を重視した商品・
サービス開発とマネジメント～」

梅室 博行 氏

東京工業大学
大学院社会理工学研究科 准教授



講演 1

「日立グループにおける
エクスペリエンスデザインの
取り組み」

古谷 純 氏

(株)日立製作所
デザイン本部 主管デザイナー



講演 2

「サッポロビールにおける
SNSを活用したコト化の実例」

大谷 光弘 氏

サッポロビール(株)
営業本部 企画推進部長



講演 3

「顧客価値に応えるモノコト作り」

保志 康徳 氏

(株)保志
代表取締役社長

日時・2013年12月5日(木)～7日(土)
会場・箱根ホテル小涌園
主催・一般財団法人 日本科学技術連盟
後援・一般社団法人 日本品質管理学会

最新情報はこちらをクリック!!

第97回 品質管理シンポジウム

検索

第97回 品質管理シンポジウム 講演概要

12/5(木) 特別講演

「ブリヂストンの経営改革～『名実共に世界一の地位の確立』を目指して～」 荒川 詔四 氏 (株)ブリヂストン 相談役

現代はまさに「不確実性の時代」と言われているが、このような中でグローバルに活動する企業として生き抜いていくためには、「何をやるか」ということに留まらず、着実なグローバル経営、すなわち不確実性の時代を遅く生き抜いていくための経営の基盤・仕組みをしっかりとさせることが非常に重要である。今回の講演の中では、経営トップとして実践し、改革を行ってきた個々の内容やそのバックグラウンドとなっている考え方についてご紹介したい。



12/6(金) 基調講演

「アフェクティブな経営～感情経験を重視した商品・サービス開発とマネジメント～」 梅室 博行 氏 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 准教授

顧客にポジティブな感情経験を生み、愛着を持たれるような製品・サービスを創出する重要性は広く認識され、多くの企業が取り組みを始めている。しかし感情経験を実際に製品やサービスとして提供するためには現場の商品企画やデザイナー、製品開発の努力に加え、経営者をはじめ組織全体で感情経験の重要性が認識されていなくては実現しない。顧客を含めたステークホルダーの感情経験を重視した経営とは何か、その重要性について議論する。



12/6(金) 講演 1

「日立グループにおけるエクスペリエンスデザインの取り組み」 古谷 純 氏 (株)日立製作所 デザイン本部 主管デザイナー

日本製造業の20世紀型“ものづくり”常勝パターンから21世紀型の“コトを前提としたものづくり”へ。市場ニーズの大きな変化にともない“広義のデザイン”に対する期待がここ数年急速に高まりつつある。日立製作所では2002年から「エクスペリエンス（経験価値）デザイン」に注目し、製品やサービスを通じて顧客に高品質なエクスペリエンスを提供するためのデザインプロセスを研究、実践してきた。鉄道車両、業務システムなどのデザイン事例を通じて具体的な取り組みと手法を紹介し、今後求められる人材および品質のあり方について課題を示す。



12/6(金) 講演 2

「サッポロビールにおけるSNSを活用したコト化の実例」 大谷 光弘 氏 サッポロビール(株) 営業本部 企画推進部長

消費構造の複雑化や若者のテレビ離れ、ネットメディアの普及により、大量のTV広告だけで物が売れる時代が終焉しつつある。商品を直接売る営業活動だけではなく、商品や会社まつわる周辺から、ブームやトレンド(=コト化)を発信し、モノを売る時代になりつつある。サッポロビールが実践しつつある、SNS等のデジタルマーケティング活用した「コト化」の推進について、事例を交えてご紹介したい。



12/6(金) 講演 3

「顧客価値に伝えるモノコト作り」 保志 康德 氏 (株)保志 代表取締役社長

弊社は創業100年以上にわたり、仏壇・仏具・位牌の製造卸販売を行ってきた。社会が揺らぎ、家庭が崩壊し、人の心が失われていく、この現代の生活の中で、祈りの気持ちや心を通わせる何か大切なものが必要ではないか。我々は仏壇という「モノ」をつくっているが、それは、供養の文化を大切にしたいという「コト」の上に成り立っている。その「コト」の部分の皆さんと一緒に考えてみたいと思う。



品質管理シンポジウム賛助会員入会のご案内

当財団は、創立以来その社会的使命に鑑み主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目を浴びるまでに成長いたしました。

今日のように激変する経営環境の中で、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されるとともに、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためには関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的に開催しておりますのは、この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。是非、本シンポジウム賛助会員にご入会いただきますようご案内申し上げます。

過去の主な講演者（組織名・役職は講演当時の表記になっております）



第96回
朝日ホール日本法人会
遠藤 功氏



第85回・第95回
サムスン電子 常任顧問
Y. W. Lee 氏



第94回
東京都市大学 教授
涌井 史郎氏



第93回
一橋大学大学院 教授
一條 和生氏



第92回
中村ブレイス 社長
中村 俊郎氏



第91回
良品計画 会長
松井 忠三氏



第90回
山本化学工業 社長
山本 富造氏



第89回
新日本製鐵 代表取締役会長
三村 明夫氏



第89回
日本マクナロド 会長兼社長兼CEO
原田 泳幸氏



第88回
小松製作所 代表取締役会長
坂根 正弘氏



第87回
花王 前会長
後藤 卓也氏



第86回
経済同友会 代表幹事
桜井 正光氏



第84回
同志社大学 客員研究員
ロバートE コール氏



第83回
経団連 名誉会長
奥田 碩氏

品質管理シンポジウム 賛助会員会社（日科技連賛助会員とは異なります）※2013年9月1日現在

- | | | | | |
|-------------------|---------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 1 アイシン・エイ・ダブリュ(株) | 14 コニカミノルタ(株) | 26 シャープ(株) | 39 日華化学(株) | 52 (株)保志 |
| 2 アイシン精機(株) | 15 (株)小松製作所 | 27 積水化学工業(株) | 40 (株)日科技連出版社 | 53 前田建設工業(株) |
| 3 (株)アドヴィックス | 16 澤藤電機(株) | 28 (株)セキソー | 41 日産自動車(株) | 54 (株)前田製作所 |
| 4 (株)IHI | 17 サンデン(株) | 29 ダイヤモンド電機(株) | 42 日産車体(株) | 55 三島食品(株) |
| 5 阿波スピンドル(株) | 18 サンデンシステム | 30 (株)竹中工務店 | 43 日本電気(株) | 56 (株)村田製作所 |
| 6 (株)MCシステムズ | エンジニアリング(株) | 31 (株)千代田グラビヤ | 44 (株)日本科学技術研修所 | 57 (株)メイドー |
| 7 大塚化学(株) | 19 サンデン物流(株) | 32 (株)デンソー | 45 (株)羽生田製作所 | 58 名北工業(株) |
| 8 岡谷電機産業(株) | 20 サンワテック(株) | 33 東海ゴム工業(株) | 46 パナソニック(株) | 59 (株)安川電機 |
| 9 オージー技研(株) | 21 (株)GSユアサ | 34 トヨタ自動車(株) | 47 日野自動車(株) | 60 ヤマハリビングテック(株) |
| 10 オムロン(株) | 22 (株)ジーシー | 35 トヨタ自動車東日本(株) | 48 富士ゼロックス(株) | 61 (株)ユニバース |
| 11 鹿島建設(株) | 23 (株)ジーシーデンタルプロダクツ | 36 (株)豊田自動織機 | 49 富士電機(株) | 62 (株)リコー |
| 12 関西電力(株) | 24 (株)ジェイテクト | 37 トヨタホーム(株) | 50 フジミ工研(株) | 63 リコーエレメックス(株) |
| 13 コーセル(株) | 25 清水建設(株) | 38 長津工業(株) | 51 ぺんてる(株) | 64 リコーテクノロジーズ(株) |

品質管理シンポジウム 賛助会員特典・入会費用

- 特典 1**▶▶▶ 品質経営（革新）のための次代の指針と最新情報が入手できます。
- 特典 2**▶▶▶ 参加企業各社の品質に関する最新情報が入手できます。
- 特典 3**▶▶▶ 本シンポジウムに毎回1名様が無料で参加でき、2名様以降は特別価格でご参加いただけます。
- 特典 4**▶▶▶ 本シンポジウム、発表報文集・実施報告が無料で入手できます。
- 特典 5**▶▶▶ 小田原駅から会場（箱根ホテル小涌園）まで会員限定の無料送迎サービスをご利用いただけます。
- 特典 6**▶▶▶ 一部の講演を会員専用ページから視聴いただけます。（講演者の許可を得た映像に限りませんので不定期です）

入会費用 1口につき年額182,700円（消費税含む）

上記入会金をお支払いいただきますと 1名様参加枠（無料）を確保できます。
2名様から特別価格（42,000円）でご参加いただけます。

問い合わせ／入会申込み

E-mailまたはお電話にてご連絡いただければ、品質管理シンポジウム賛助会員申込書をお送りさせていただきます。

一般財団法人日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当（茂田／清田）

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL：03-5378-1213 FAX：03-5378-9842 E-mail：tqmsemi@juse.or.jp

趣旨



圓川 隆夫 氏
東京工業大学 教授
第97回品質管理シンポジウム
担当組織委員

工業化社会から情報化社会、そして膨大なグローバルな市場台頭と時代背景は大きく変化している。国内市場では消費者自身が何を求めているのかわからなく、一方で経済状況や文化を異にする新興国市場の真のニーズが見えない状況では、工業化社会で機能した高品質・高信頼性一辺倒の品質管理を含めたアプローチが通用しなくなりつつある。同時にわが国は高度成長時代の高品質・高信頼性追求によるGDP増大の成長モデルから、世界の市場での顧客価値創造に基づくGNI増大を目指すパラダイムシフトを余議なくされている。

このような状況で日本のみならず新興国を含めた世界でイノベーションを引き起こすためには、安心品質の確保は維持しながら、ものの提供からその使用・活用・サービスを通したワクワク感を想起させる感情経験まで含めた価値創造の視点、「ものコトづくり」が求められる。すなわち、潜在する顧客のニーズを学習しながら徹底把握し、顧客を含めた新たなバリューチェーン（エコシステム）を創成（設計）する必要がある。

そのためには、品質管理のみならず設計開発のあり方や行動指針、そして経営のあり方までも変革が求められる。現在のものづくり経営の閉塞状況は、高度成長時代に効果を発揮した現場改善主義の強みの成功体験もその一因になっているのではなからうか。グローバルダイナミックスの時代には、現場改善主義頼みだけでは有効でなく、その強みを活かすためにも、目的情報も環境情報も不完全な状況の中から顧客価値拡大につながる価値共創戦略の発想がまず求められる。

本シンポジウムでは、ワクワク品質を創出するための「ものコトづくり」を持続的に成功させる品質管理、設計・開発、経営のあり方を探るとともに、その根底となる特に価値共創戦略を実行できるグローバル人材育成をどのようにすべきか、そしてそのような能力を発揮させるため経営者の役割とアフェクティブ経営とも呼ぶべき企業経営の環境整備、そして設計・開発のあり方について考える。同時にワクワク品質の品質保証のあり方、安心品質を確保するための品質文化、すなわち現場改善主義を今後も維持・強化し、海外においても醸成するための方策について考える。

本シンポジウムの特長

- ① 今後の日本の品質管理の指針を示します。
- ② 質疑応答の時間を設け、日本を代表するゲストスピーカーから深掘した話を聞くことができます。
- ③ 「談話室」「グループ討論」「立食パーティー」など参加者が交流できる場を数多くご用意しています。

プログラム		開催期日：2013年12月5日(木)～7日(土) 会場：箱根ホテル小涌園	
月日	時間	科目	講演者
12/5 (木)	19:30～20:40	<特別講演> 「ブリヂストンの経営改革 ～「名実共に世界一の地位の確立」を目指して～」	荒川 詔四 氏 (株)ブリヂストン 相談役 (前取締役会長)
	20:40～21:00	質疑・応答	
	21:00～22:00	グループ討論メンバー自己紹介	
	22:00～23:00	談話室(参加自由)	
12/6 (金)	8:30～8:40	主催者挨拶	(一財)日本科学技術連盟 役員
	8:40～8:50	<オリエンテーション> 「ものコトづくり時代の品質と人材育成 ～ワクワク品質と安心品質の両立を支える更なる品質力強化を目指して～」	圓川 隆夫 氏 東京工業大学 教授 ※97QCS 担当組織委員
	8:50～9:50	<基調講演> 「アフェクティブな経営 ～感情経験を重視した商品・サービス開発とマネジメント～」	梅室 博行 氏 東京工業大学 大学院社会理工学研究科 准教授
	9:50～10:00	質疑・応答	
	10:00～10:20	休憩	
	10:20～11:20	<講演1> 「日立グループにおけるエクスペリエンスデザインの取り組み」	古谷 純 氏 (株)日立製作所 デザイン本部 主管デザイナー
	11:20～11:30	質疑・応答	
	11:30～12:20	昼食・休憩	
	12:20～13:20	<講演2> 「サッポロビールにおけるSNSを活用したコト化の実例」	大谷 光弘 氏 サッポロビール(株) 営業本部 企画推進部長
	13:20～13:30	質疑・応答	
	13:30～14:30	<講演3> 「顧客価値に応えるモノコト作り」	保志 康徳 氏 (株)保志 代表取締役社長
	14:30～14:40	質疑・応答	
	14:40～14:55	グループ討論の主旨説明	圓川 隆夫 氏 担当組織委員
	15:00～17:50	グループ討論(1)	
18:00～19:00	夕食(立食)		
19:10～21:00	グループ討論(2)		
21:00～23:00	談話室(参加自由)		
12/7 (土)	8:30～9:45	グループ討論報告(10分×6班※予備15分)	司会：圓川 隆夫 氏 報告：各班リーダー
	9:45～10:00	休憩	
	10:00～11:30	総合討論	圓川 隆夫 氏
	11:30～11:40	第97回 品質管理シンポジウム まとめ	
	11:40～11:50	次回(98回)品質管理シンポジウム案内	
11:50～	昼食・解散	中尾 眞 氏 (株)ジーシー 代表取締役社長 ※98QCS 担当組織委員	

※テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略) ※◎は第97回品質管理シンポジウム担当組織委員



岩崎 日出男
近畿大学 名誉教授



◎圓川 隆夫
東京工業大学 教授



佐々木 眞一
トヨタ自動車㈱ 相談役・技監



田中 千秋
東し(株) 相談役



中尾 眞
㈱ジーシー 代表取締役社長



宮村 鐵夫
中央大学 教授

グループ討論

テーマ・趣旨・論点

第1班

“ものコトづくり”のための経営者の役割と経営環境・企業文化

■リーダー：飯塚 悦功(東京大学 名誉教授)・酒井 和憲(㈱アドヴィックス 常務役員)

趣旨 日本を含む世界の先進国は、いま成熟経済社会のまっただ中にあり、中開発国においては経済発展と民度向上が進行している。こうした経営環境の認識のもとに、経営者自らが現代の経営における“ものコトづくり”の意味と意義を理解し、自社の経営理念と融合させ、その推進に強く関わり、“ものコトづくり”の価値創成の土壌となる組織文化・品質文化を構築するために、どのような役割を果たすべきかを考察する。

論点

- ①経営者像：経営者自らが持つべき価値観・行動原理(見識・度胸・スピード感)
- ②組織能力：組織が有すべき特徴・能力の認識・確立・強化・実装における経営者の役割
- ③舞台作り：社員がリーダシップを発揮し活躍できる舞台の設計と運用(運営原理、処遇、リスクへの備え)

第2班

“ものコトづくり”における顧客を観察・理解し、顧客の想像を超えた感動を与える“コト”を創造するには

■リーダー：奥原 正夫(諏訪東京理科大学 経営情報学部 学部長)・村山 輝道(アイシン精機㈱ TQM・PM・ISO推進部 主査)

趣旨 コトづくりとは、“その商品を使って顧客が何をしたいのか顧客以上に考え抜き、顧客が思いもよらないようなプラスアルファの喜びや感動をつくりあげること”とも定義される。B2BやB2C、新しいO2O(on line to off line:インターネット上のつながりをきっかけにリアルの世界で消費したり出会ったりという経験や新たなエコシステムを生み出すこと)の状況に応じた方法はどのようなものかを議論したい。

論点

- ①コトとして顧客が何をしたいのかを考えるための上手な観察方法とはどのようなものか
- ②観察結果からのシナリオ造りと、シナリオを実現するためのモノ造りとはどのようなものか
- ③考え抜いたモノ造りが顧客の感動に結びつくかどうかの検証はどのように行えばよいか

第3班

新興国市場で“ものコトづくり”を成功させるには

■リーダー：山田 秀(筑波大学 大学院 ビジネス科学研究科 教授)・岡田 慎也(ダイキン工業㈱ 地球環境担当、GRTプロジェクトリーダー 常務執行役員)

趣旨 新興国市場での成功のためには、それぞれの市場における顧客の要求を的確に把握し、製品に反映する必要がある。このためには、それぞれの市場に生活基盤を置き、現地の人とともに感性を働かせ、求められている顧客価値を探索し、適正品質を明確化することが課題となる。さらにこの品質を実現するために、日本企業の持つものづくりの強みを生かす必要がある。グループ3では、日本企業が新興国市場で成功するために重要な点を議論する。

論点

- ①どのような組織体制にすると顧客の要求が的確に把握できるか
- ②市場の文化、特性など理解し市場に固有な適正品質を設定するにはどうするか
- ③ものづくりの強みを生かしつつ適正品質を実現するにはどうするか

第4班

“ものコトづくり”のための技術開発のあり方

■リーダー：猪原 正守(大阪電気通信大学 情報通信工学部 情報工学科 教授)・向井 正人(本田技研工業㈱ 二輪事業本部 二輪品質保証部 部長)

趣旨 “ものコトづくり”時代の商品開発・技術開発のあり方について、先進国市場と新興国市場に分けて議論を行い、日本企業として、存在感を示し続けるための技術開発のあり方を、①両市場に共通する部分と②市場ごとに独自に展開する部分に分けて整理し、あるべき開発のあり方について議論する。ここでは、市場調査の方法、開発基準や品質目標の考え方、コスト目標の定め方、グローバル調達の実現、開発体制・組織のあり方、さらに開発拠点等のあり方まで、メンバー各社の視点から、出来る限り幅広く議論した上で、“ものコトづくり”のための技術開発のあり方を提案していきたい。

論点

- ①先進国市場と新興国市場における“ものコトづくり”のための技術開発のあり方とは何か
- ②その姿の実現に際して、①120%の品質保証とは、②商品開発における松・竹・梅一達成基準のレベル分けは可能か、③異文化社会における顧客ニーズ把握のやり方、④開発体制・組織の構え方や開発拠点のあり方など、解決すべき課題は何か
- ③それらの課題を解決するための手段は何か

第5班

“ものコトづくり”のための人材育成と組織マネジメント

■リーダー：加藤 雄一郎(名古屋工業大学 大学院工学研究科 産業戦略工学専攻 准教授)・小泉 雄大(コーセル㈱ グローバルBM戦略開発室 課長)

趣旨 高機能・高品質製品であれば売れる」という過去の成功体験に縛られて、「製品レベルのQCD競争」から抜け出せないまま厳しい価格競争に見舞われている企業が少なくない。第5班では「今日の競争戦略は、製品レベルではなく、ビジネスモデル(製品・サービスを組合せた仕組みのレベル)で起きている」という大前提のもと、「顧客にもたらす経験価値」という切り口から上記を打破する糸口の発見を試みる。これまでの本シンポジウムで頻りに問題提起されてきた下記の論点について見解を大きく前進させることを目指す。

論点

- ①コトづくり起点のコンセプト開発・魅力的な製品・サービスを創造する際として「コンセプト」の重要性が説かれている。しかし、コンセプト開発手法はなお発展の余地が大きい。「経験価値(コト)」の観点からコンセプト表現と開発の在り方を議論したい。また、コンセプトをベースにした新製品アイデア選出の思考プロセスについても議論したい。
- ②コトづくり人材の育成と組織マネジメント:今後、共創的価値を発生および創造できる人材を育成することの重要性が説かれている。共創的価値を創造できる人材の育て方(人材育成)と、そのような人材を活かす組織マネジメントの在り方について議論したい。本論点については、HR、能力開発をはじめ人事関連部門の討議参加を特に期待したい。

第6班

“ものコトづくり”における品質保証のあり方

■リーダー：松田 啓寿((一財)日本科学技術連盟 嘱託)・佐藤 義和(富士ゼロックス㈱ CS品質本部 CS品質本部長 執行役員)

趣旨 日本企業が生き残り、さらに躍進するためには、既に人口減少の始まった日本の国内市場と、グローバルな市場における次世代の“ものコトづくり”の同時達成が必須である。今回のシンポジウムのキーワードである“ワクワク(高)品質”を持続的に提供し、夫々の市場において顧客に喜んで使っていただき、期待される“コト”を実現する際の品質保証とはどうあるべきか、経営上も重要な課題である。第6班では、品質保証に関わる組織内の各機能においてあるべき姿、“ワクワク(高)品質”を実現するためのプロセス(企画、設計・開発、生産準備、運用管理等)と、品質保証機能の役割と力量について意見交換し、提言したい。

論点

- ①ものコトづくりを通しての“ワクワク(高)品質”は、従来の品質保証と何が違うか
- ②“ワクワク(高)品質”を持続的に提供するために組織がやるべきこと、やってはいけないこと
- ③上記を踏まえて、次世代の品質保証とはどうあるべきか、打破すべき障害は何か

参加要領

開催日時

2013年12月5日(木) 19:30~12月7日(土) 12:00
(12月5日受付開始17:00~, 夕食18:00~)

会場

箱根ホテル小涌園「コンベンションパレス・蓬莱の間」
〒250-0407 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平
TEL. 0460-82-4111 FAX. 0460-82-4137

参加対象

企業の役員, 上級管理職の方々

参加費

- 一般
105,000円/1名 (消費税込み)
 - 本シンポジウム賛助会員会社
1名無料, 2人目から42,000円/1名 (消費税込み)
- ※食事代(12月5日夕, 12月6日3食, 12月7日朝・昼)は日科技連が負担いたします。尚, 宿泊費, 交通費はご負担ください。

申込方法・問い合わせ先

第1次締め切を10月18日(金)とさせていただきます。

一般財団法人 日本科学技術連盟 教育推進部 第一課 品質管理シンポジウム担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1 TEL:03-5378-1213 FAX:03-5378-9842 E-mail:tqmsemi@juse.or.jp

バス送迎サービス

JR小田原駅をご利用頂く参加者の方は開催地までのバス送迎サービス(時間帯限定)を致します。

①集合場所:

小田原駅 西口 改札口付近
12月5日(木) 16:50発車→17:30 ホテル到着
ホテル小涌園 駐車場付近

12月7日(土) 12:20発車→13:00 小田原駅到着

※バス会社のバスガイドが案内板を持ってお待ちしております。
※発車の30分前にバスは到着致します。

②定員:53名(乗車)

※先着順になりますので, 定員を越えてしまった場合は, 誠に恐れ入りますが, 各交通機関をご利用頂きますようお願い致します。

③その他:

バス送迎サービスをご利用しない場合は, 公共交通機関のバスをご利用ください。

申込方法

下記の申込フォームから必要事項を入力し, お申し込みください。
以下のフォームで参加者**5名まで**申し込むことが可能です。

<https://fofa.jp/juse/a.p/122/>

申込画面フロー

連絡担当者
入力画面



参加者1
入力画面



参加者5
入力画面



確認画面



登録完了画面

※

※この間に参加者2, 参加者3, 参加者4の入力画面があります。

ご入力時の注意事項: メールアドレスや電話番号などの英数字を入力の際は, 必ず半角で入力してください(全角でも入力することができてしまいますので十分ご注意ください)。

1 連絡担当者入力画面【全て必須項目】

お申込受付後「関係資料」をお送りする方の情報を入力します。
参加人数(シンポジウム賛助会員)と参加人数(一般)の欄には, 実際の参加人数(数値のみ)を入力してください。
※シンポジウム賛助会員会社の場合は, 参加人数(一般)の欄には0(ゼロ)を入力してください。

2 参加者1の入力画面【全て必須項目】

参加者情報(1画面1名分)を入力します。

3 参加者2~5の入力画面【任意項目】

参加者が2名以上いる場合は, 全て必須です。

参加者が2名以上いる場合はこの画面以降入力してください。参加者が1名の場合は, 何も入力せずに, 確認画面までお進みください。
参加者2~5の入力画面では入力項目の必須チェックを行っていませんので, 2名以上を入力する場合は, 入力漏れがないようにご注意ください。